

# 163

# 国鉄クモユニ81形 郵便荷物電動車



## 板状未塗装キット・旧型国電シリーズ

### 別売アイテム

- 台車 #5007:DT16
- 動カユニット #5502:DT16
- パンタグラフ #5802:PS13
- スノーブロー #62
- 排障器 #62-1
- 車両マーク #6303

### カラーガイド

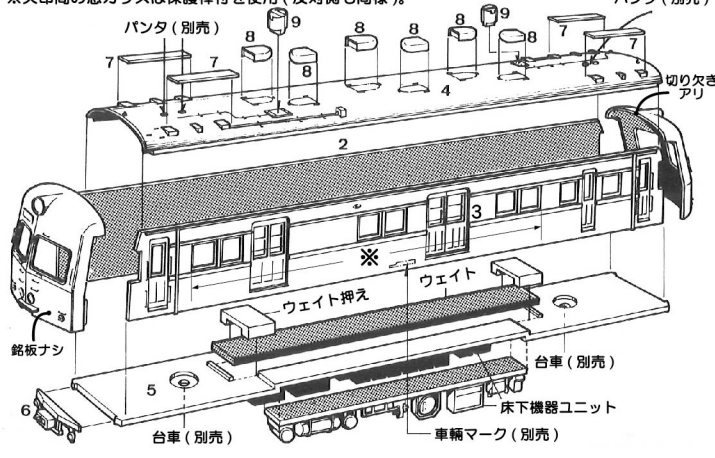
- ボディ ③+⑬/⑤+⑦/⑥
- Hゴム ④
- 屋根 ⑤
- 屋根上機器 ⑨
- 床下 ⑩

※ボディの塗色は「車両ガイド」項もご参照ください。

### ドリル刃ガイド

- 1.2mm: パンタグラフ取付穴
  - 1.5mm: 避雷器取付穴
- ※数字は直径です。

※矢印間の窓ガラスは保護棒付を使用（反対側も同様）。



### ボディの組み立て

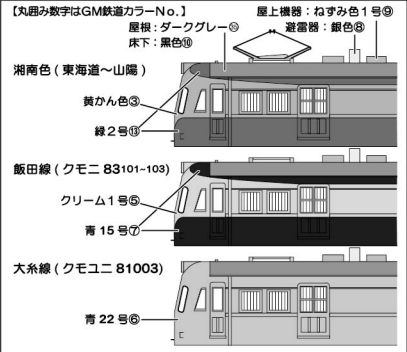
前後妻板、左右側板、屋根板をすき間の出来ないよう注意して接着し、乾燥後に雑さ目を修正してから全体を塗装します。妻板パーツは2枚とも「1」の刻印がありますが、実際には前面右下の銘板（楕円形の彫刻）の有無や、前照灯ガラスのノリシロ部切り欠きの有無の差異があります。左図を参考に側板を手前とした場合、ノリシロ部切り欠きのある妻板を右側に、銘板のある妻板が左に接するよう、組み立ててください。また、側板の真中央部にも短いリブがあり、やはり屋根板裏の切り欠きと合致するようにすれば、屋根板の向きが必ず決まります。妻板上部のノリシロ切り欠きも屋根板裏側の突起と噛み合いますので、必ず板組みをしてから接着を行ってください。

全体を塗装したら透明ガラスと保護棒付ガラスを、ゴム糸接着剤を用いて貼り付けます。保護棒付ガラスは左右側板とも、左図の※の箇所で、屋根板は細かなパーツ類を取り付ける前にダークグレー⑨で塗装しておき、その後あらかじめねずみ色①⑤⑨に塗ったランボードとベンチレーター、銀色に塗った避雷器を少量の接着剤で取り付けます。

床板は上面に銘板のウェイトをウェイト上止めで固定し、下面には床下機器ユニットを左右にふり分けて接着し、黒く塗って車体にはめ込みます。この車輪は編成の中央に入ることはあまりないですので、どちらか片方にダミーカバーを使用し、その側の台車カバーはボックス先端よりカットして、その際に別売のスノーブローもしくは排障器を取り付けておくと、正面が引き締まります。

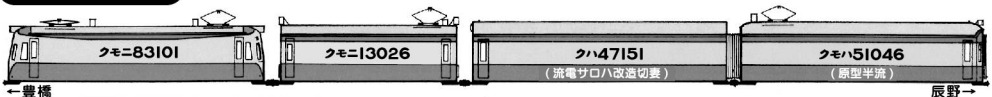
### 車両ガイド

80系湘南電車用として製造された流線型両運転台の郵便荷物電動車で、当時旧型車の改造が当然だったこの種の車輛が新型台車装備で登場したのは、ファンの間に大変な話題となりました。当時世界最長の電車編成の16両編成の一端を担いましたが、111系とクモユニ74に追われて西下し、中京地区、さらに岡山地区での使用を最後に幹線でのつとめを終え、6両製造されたうちの半数が全室荷物室のクモニ83100に改造され飯田線専用に、クモユニで残った1両はスカイブルー1色に塗り潰されて大系線で使われました。いずれも新性能化で後進に道を譲り、引退しました。湘南色のまま引退した車両は80系のほか、ぶどう色の41系などとも混結されて、ひととき目立つ存在でした。模型においても編成にアクセントを添えるアイテムとして、様々な車輛と混結してお楽しみください。



### 編成例

●荷電2輛を併結した飯田線の編成例（1978.1）



←豊橋

辰野→